Vene Investment

Venezuela Weekly Report

No.１０２　２０１９年６月１９日（水曜）

（写真）ベネズエラ工業連合会（Conindustria）

ベネズエラの製造業経済指標

株式会社ベネインベストメント
松浦　健太郎

５月２８日　中央銀行がついに経済指標を更新した。

「ウィークリーレポート No. 100」では、GDP 成長率、インフレ率、「ウィークリーレポート No. 101」では、ベネズエラの対外資産・負債表について紹介した。

本稿では、ベネズエラの製造業の経済状況（民間セクターのみ）に関する中央銀行の統計を分析したい。

製造業は０７年の５分の１

本稿では中央銀行が公表した「民間セクターの製造業経済指標」について紹介したい。

これまでベネズエラは、PDVSA が原油輸出で得た外貨を民間セクターに割り当てることで、企業が商品を購入し、経済が回る構造になっていた。

国内製造業についても、生産のために原材料を外国から輸入する必要がある。従って、国内製造業も政府の外貨割当を必要としている。

周知のとおり、昨今はその外貨が不足しており、国内製造業も深刻な影響を受けている。

以下のグラフは、中央銀行が公表した「ベネズエラ製造業の経済指標（総合)」である。

青い折れ線グラフが、経済指数（左軸）
赤い棒グラフが、同指数の前四半期増減率（右軸）

グラフの定義を簡単に説明すると、

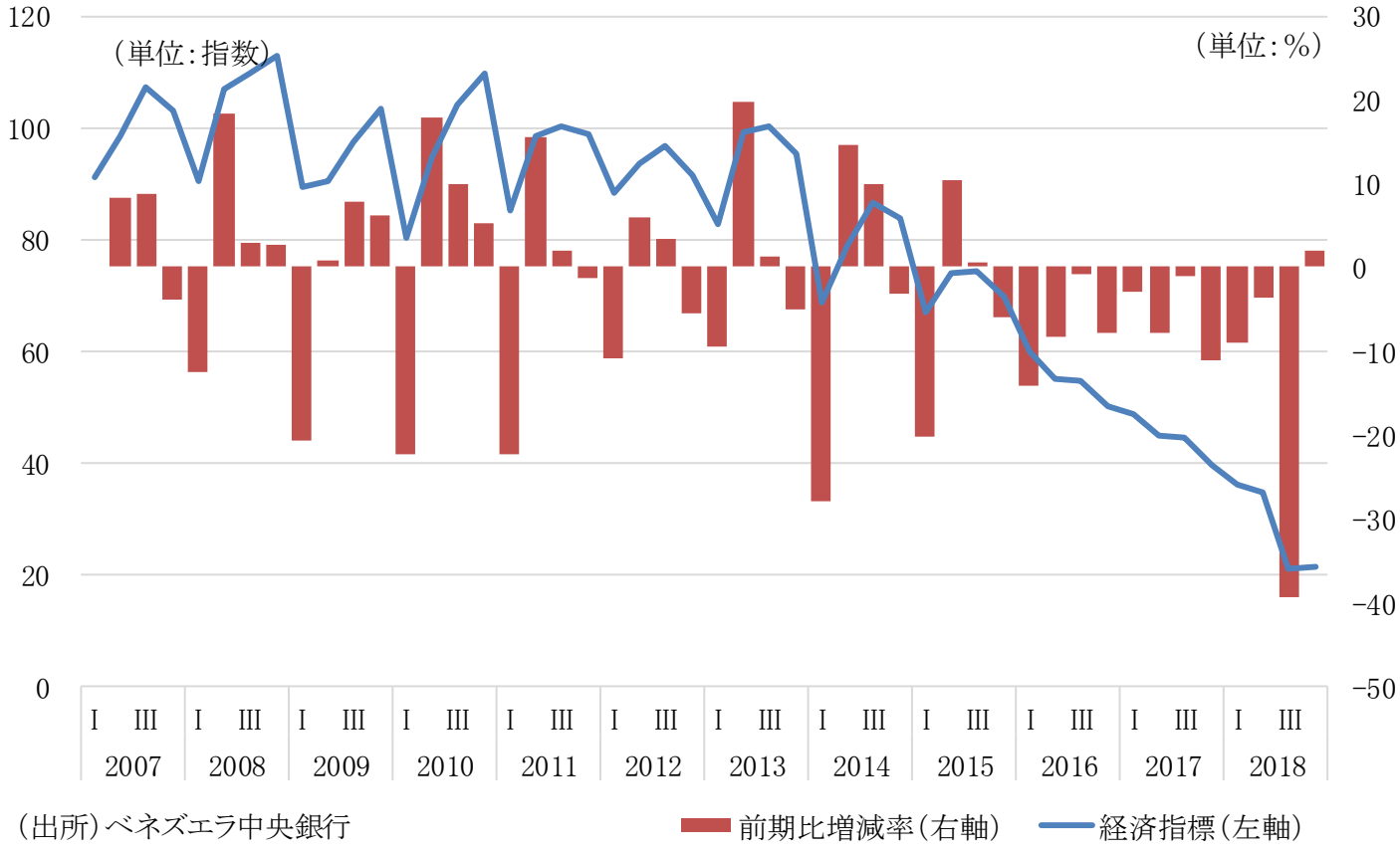
①指数は、２００７年を基準（１００）とした、製造業の経済活動を数字にしている。
②民間セクターのみで公的セクターは含まれていない。
③製造業のみで卸売・小売など商業分野は含まれていない。

最新の公表値である２０１８年第４四半期の経済指数は２１．４。つまり、２００７年の製造業の経済状況を１００とした場合、約５分の１まで製造業が縮小したことになる。

なお、好景気に沸いた２０１１年～１２年にかけても製造業の経済指数は１００前後を維持しており、２００７年と比べて経済状況が良くなっているとの数字は読み取れない。これは、当時、好景気に沸いたのは製造業よりも商業分野が中心であったことが理由と考えられる。

次に業種別の経済指標を見てみたい。次のページは１８年第４四半期の産業別経済指標になる。

グラフ：　ベネズエラの製造業経済指標(総合)の推移

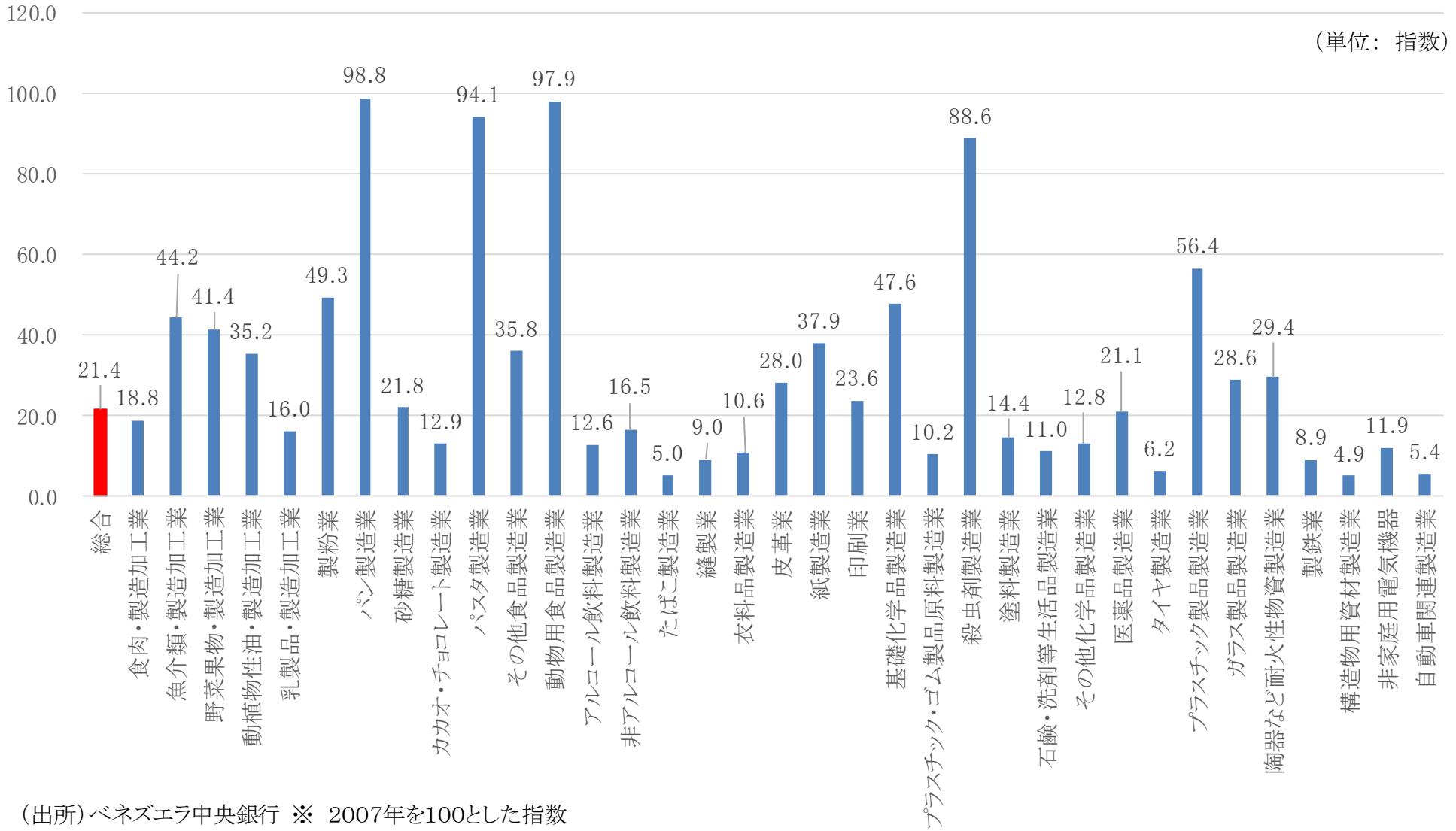


(出所)ベネズエラ中央銀行

Venezuela Weekly Report

No.１０２　２０１９年６月１９日（水曜）

グラフ：　産業別経済指標（2018年第4四半期）



（出所）ベネズエラ中央銀行　※　2007年を100とした指数

食品関連は一定の経済活動を継続

１８年第４四半期の経済状況が０７年の約５分の１と説明したが、産業ごとに状況をみると様子はだいぶ異なる。

どの業種でも０７年よりも良くなったという結果は出ていないが、０７年当時とそこまで変わらない業種も存在する。

傾向としては食料品に関連する業種が比較的堅調と言える。

具体的には
「パン製造業」（０７年比９８．８％）
「パスタ製造業」（同９４．１％）
が比較的高い。

「プラスチック製品製造業」も商品を販売するために必須な業種。
「殺虫剤製造業」も農業製品関連という意味では食料と関係していると言えそうだ。

肉・魚・魚類の製造加工業は０７年の半分以下に減っており、とてもではないが好調とは言えないものの、著しい経済混乱に陥っている状況を踏まえれば、まだ持ちこたえている方かもしれない。

なお、食料品などを輸入品に頼りがちなベネズエラでは、０７年当時から国内の食品製造業がそこまで活況ではなかったことも、当時と比較して落ち込みが小さく見える要因の１つかもしれない。

自動車関連産業は厳しい状況

一方、０７年当時と比較して落ち込みが大きい産業について確認したい。

当時と比較して落ち込みが激しいのは
「構造物資材製造業」（０７年比４．９％）
「たばこ製造業」（同５．０％）
「自動車関連製造業」（同５．４％）
「タイヤ製造業」（同６．２％）
「製鉄業」（同８．９％）
「縫製業」（同９．０％）
など。

これらの産業は０７年と比べて経済活動が１０分の１以下に減ったということになる。

「構造物資材製造業」、「製鉄業」は建設に関連する業種と思われる。

また、「自動車関連製造業」、「タイヤ製造業」は自動車分野だ。

これらの分野は、他の業種と比べて経済活動の落ち込みが特に大きいと言える。

なお、先の食品製造業の話と同様に、この数字は０７年の経済実績が好調であればあるほど、当時と比較した実績が悪いことになる。

２００７年、ベネズエラの自動車産業はピークにあった。

ベネズエラ自動車会議所（CAVENEZ）が公表する「民間セクターの自動車販売台数」によると、２００７年の自動車販売台数は４９．２万台と過去最高を記録している。その後、ベネズエラ政府は「新自動車産業政策」という政策を発表。自動車セクターへの外貨管理を強化したため、同セクターの経済活動は急速に縮小した。

今の自動車産業が極めて厳しい状況であることは疑いようがないが、自動車産業が好調であった０７年と比較していることも統計上の落ち込みが激しくなっている要因の１つと言えそうだ。

表：　自動車販売台数の推移

	販売台数	前年比
２００３年	63,726	△ 50.5
２００４年	134,357	110.8
２００５年	228,378	70.0
２００６年	343,351	50.3
２００７年	**491,899**	**43.3**
２００８年	271,622	△ 44.8
２００９年	136,517	△ 49.7
２０１０年	125,202	△ 8.3
２０１１年	120,691	△ 3.6
２０１２年	130,553	8.2
２０１３年	98,878	△ 24.3
２０１４年	23,707	△ 76.0
２０１５年	17,585	△ 25.8
２０１６年	3,008	△ 82.9
２０１７年	2,479	△ 17.6

（出所）CAVENEZ / MOTOR

以上